

- 名鉄バス 大山口
- ▶ 30 地蔵菩薩と馬頭観音 徒歩4分
- ▶ 31 白翁稲荷神社 徒歩1分
- ▶ 32 明照寺 徒歩3分
- ▶ 33 安祥寺 徒歩9分
- ▶ 34 馬蹄石 徒歩2分
- ▶ 35 見性寺 徒歩26分
- ▶ 36 鵜飼邸「舎」 徒歩1分
- ▶ 37 内々神社社殿 徒歩4分
- ▶ 38 内々神社庭園 徒歩1分
- ▶ 39 妙見寺 徒歩15分
- ▶ 40 内津峠の道標 徒歩17分
- 名鉄バス 内々神社

所要時間
約1時間30分

距離
約6.1km



よこいやゆう うつつ づか
G 横井也有と内津のすみれ塚

俳人の横井也有は元禄15年(1702)に生まれ天明3年(1783)に82歳で没した尾張藩の有力藩士で、若くして俳諧の名手として知られた多芸多才の人物です。隠居後、内津への旅の紀行「内津草」を著しました。内々神社の東側の丘には、也有が揮毫した芭蕉の句「山路来て何やらゆかしすみれ草」の句碑があり、「すみれ塚」と呼ばれています。「すみれ塚」に上る小道には、「内津草」に記された俳句・狂歌の碑も配されています。



春日井の下街道ガイドマップ

編集・発行 春日井市教育委員会文化財課
協力 春日井文化財ボランティアの会
平成28年3月31日 発行
令和2年3月31日 改訂
表紙絵図／尾張名所圖会より引用し着色

無料アプリ「Catalog Pocket」で「下街道ガイドマップ」を配信中!

3つの機能で楽しめる♪

- 音声読み上げ機能
- ポップアップ機能
- 多言語翻訳機能



33 あんしょうじ 安祥寺

曹洞宗大須万松寺の末寺で、宝暦5年(1755)に現地に移されました。境内には妙見堂、観音堂が建ち、御嶽山大権現、佐倉宗吾郎碑、二十二夜石があります。明治期に西尾地区の石仏が集められ、参道にまつられています。



34 ばていせき 馬蹄石

「字駒返り」の地にあり、日本武尊が東征の帰途、建縮種命をまつった内津を振り返った時についた馬の蹄跡といわれています。この時、馬の尾が西を向いたので西尾(さいお)の地名が生まれたという伝説もあります。



35 けんしょうじ 見性寺

天文2年(1533)の創建も一時荒廃し、安永6年(1777)綱園玄提和尚が再興しました。大般若経600巻(市指定文化財)を所蔵しています。俳人横井也有と親交があり、也有筆の句碑などがあります。



36 うかいてい やまきち 鵜飼邸「舎」

舎(やまきち)という屋号の商家で、大正の初め頃まで金勢丸(腹薬)、正生丸(解熱剤)の製造販売や、味噌、たまりの醸造で栄えました。銅板の唐破風屋根と龍の彫物のある看板が2枚残されています。



37 うつつじんじゃやでん 内々神社社殿

社殿は、文化年間(1804-1817)に、信州諏訪の名工立川一族の手によって建てられたものです。構造は、本殿と拜殿を合の間で結ぶ権現造りで、社殿の彫刻も併せ、近世を代表する神社建築といえます。*県指定文化財



38 うつつじんじゃていえん 内々神社庭園

作庭時期は不明ですが、回遊式林泉型庭園で、南北朝時代の名僧夢窓疎石(1275-1351)の作庭ともいわれています。裏山の景色を借景として取り入れ、傾斜を利用し、自然石が巧みに配置されています。*県指定文化財



39 みょうけんじ 妙見寺

嘉暦年間(1326-1328)密蔵院開山慈妙上人により、内々神社の神宮寺として創建されました。妙見菩薩が本尊で、現在の本堂は元の護摩堂で、信州諏訪の立川一族に学んだ野村作十郎らにより建てられました。



40 うつつとうげ どうひょう 内津峠の道標

県境付近にあり、旧国道19号線から多治見市の廿原(つづはら)へ向かう三叉路の角にあります。自然石に「右 廿原道」「左 江戸 善光寺道」と刻まれ、善光寺道とも呼ばれた下街道の貴重な道標の一つといえます。